

新古改撰誌記

日光 三冊之内  
御参詣一件 三  
卷之十六

(朱書)  
「五百五十六」

日光 御参詣并 御留守中御用留 人

日光

御参詣之節御供建・開

江戸

御出立

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者筋違橋内より神田橋外迄御供揃刻限より半時早ニ相揃、夜明ケ候而川口之方江可罷越候
- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄、神田橋御門より大手御門外迄行列立置、御召替御馬より御貝太鞍役迄ハ常々 御成之時之通
- 御城内ニ御行列立置、右御供廻り計ニ而大手御門外迄 出御被遊、御跡之御持組ハ御畳小屋新外繫之方江立置、御貝太鞍役酒井雅楽頭屋敷前迄参候時分御持組操出し可申候
- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ酒井雅楽頭辻番後迄よ

り平川之方江立置、御持頭之跡江押続繰出可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄大手下馬後より八代洲河岸ニ立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出可申候

- 一、御徒押同勢・諸道具奉行・牽馬迄者道三橋より細川越中守屋敷脇通大名小路江差置、御徒押見計引出し可申候

川口錫杖寺

御成之節御昼休

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ錫杖寺より拾町程も行越日光之方江行列之儘立置、昼食いたし候而直ニ岩槻江可罷越候
- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ錫杖寺より五町程行越立置可申候

- 一、御先馬より御徒四組迄ハ錫杖寺前より日光之方江立置可申候

- 一、御長刀・御腰物筒者錫杖寺地内江入可申候、尤御小道具之場所ニ立候分ハ錫杖寺門外横町明地之所ニ差置可申候

- 一、小十人より跡之御供ハ錫杖寺門前より江戸之方江立置可申候

- 一、御跡之御持頭ハ錫杖寺より江戸之方江式町半程之積り、老町之間ニ残可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ錫杖寺より江戸之方江式町程置、鎌倉橋迄ニ式町余之所ニ立置可申候

- 一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来老騎迄ハ鎌倉橋際より岩淵川端迄三町余之間ニ立置可申候

- 一、同勢ハ岩淵手前川端之明地ニ繰込置可申候、万一出水候節ハ板橋道之方江引込可申候

岩槻

御成之節 御着

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ諏訪小路之方江開可申候
- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ渋江木戸内・天神小路之方江開可申候

- 一、御先馬・御召替御駕籠ハ三丸前ニ而開可申候

- 一、御挾箱より御腰物筒迄ハ二丸前を行越天神曲輪之方江開可申候

- 一、御跡御供・御貝太鞍役迄者二丸車橋門内迄御供可仕候

- 一、御跡之御持頭ハ大手之内城米藏之小路江開可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ渋江木戸外ニ而下馬いたし、人馬ハ段々渋江町田中口之方江繰入押可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ久保宿町木戸際より市宿町之方江開可申候

- 一、同勢ハ加倉口弥勒寺前より横町新町通林道口之方江引入可申候

岩槻

御出立

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者渋江町浄安寺前より日光之方江立置、御供揃刻限半時早ニ御目付より案内申遣、幸手之方江可罷越候

- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ渋江木戸際より大手之方江立置、御先馬より御貝太鞍役迄ハ江戸 御出立之通城内ニ行列立置、右御供廻り計ニ而大手門外迄被遊 出御、御跡之御持組者渋江小路江立置、御貝太鞍役渋江木戸辺迄参候時分御跡御持組繰出し可申候

- 一、御跡之御持頭ハ大手之内城米藏之小路江立置可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄者諏訪小路ニ立置御持頭之跡江押続繰出し可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ久保宿町より市宿町之方江立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出し可申候

- 一、同勢ハ市宿町より見合引出シ可申候

幸手聖福寺

御成之節 御昼休

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ聖福寺前拾町程行越行列之儘立置、昼食いたし候而直ニ古河江可罷越候

- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄者聖福寺前を五町程行越立置可申候

- 一、御先馬より御徒四組迄ハ聖福寺前より日光之方江立置可申候

- 一、御長刀・御腰物筒者聖福寺門内江入可申候、尤御小道具之場所ニ立候者ハ聖福寺より江戸之方江老町程置立置可申候

- 一、小十人より跡之御供者聖福寺より江戸之方江老町程置立置可申候

- 一、御跡之御持頭者聖福寺より江戸之方江式町半程下り立置可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ聖福寺入口より江戸之方江四町程下り立置可申候

- 一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄聖福寺前より江戸之方江九町程下り立置可申候

- 一、同勢ハ聖福寺前より江戸之方江拾五町程下り押可申候

古河

御成之節 御着

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者茶屋口より入、四軒町通右

江堀端大手前通り船渡町之方江行越留り可申候

- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ茶屋口より四軒町通り右江堀端江戸町之方江開可申候

- 一、御先馬・御召替之御駕籠ハ桜門之内ニ而開可申候

- 一、御挟箱より御腰物筒迄二丸前を行越平門之方江開可申候

- 一、御跡之御供・御貝太鞍役迄ハ二丸門之内迄御供可仕候

- 一、御跡之御持頭ハ茶屋口より入、諏訪曲輪木戸内広場ニ而残り長谷道之方江開可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ諏訪曲輪木戸外ニ而下馬いたし、人馬者四軒町之方江段々操込可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄茶屋口外より式町目之方江開可申候

- 一、同勢者中田之方松原之内ニ而左ニ片付置可申候

古河

御出立之節

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ通り式町目より横町口之方江立置、御供揃刻限半時早ニ御目付より案内申遣し直ニ小金井之方江可罷越候

- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ石町より大手門外迄立置、御挟箱より御貝太鞍役迄江戸御出立之通桜門内ニ御行列建置、右御供廻り計ニ而大手門外迄出御被遊御跡之御持頭ハ大手門外厩町之方江立置、御貝太鞍役江戸町之木戸辺迄参候時分御持組繰出可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ江戸町際より堀端ニ付

諏訪曲輪之方ニ立置、御持頭之跡江押続繰出し可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ札之辻より老町目通原町之方江立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出し可申候

- 一、同勢ハ西光寺後之畑ニ集メ置鍛冶町通引出可申候

小金井 慈眼寺

御成之節 御昼休

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ慈眼寺前を拾町程行越行列之儘立置、昼食いたし候而直ニ宇都宮江可罷越候

- 一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ慈眼寺前を五町程行越留り可申候

- 一、御先馬より御徒四組迄ハ慈眼寺門前より日光之方江立置可申候
- 一、御長刀・御腰物筒者慈眼寺門内江入可申候、尤御小道具之場所ニ立候ものハ慈眼寺前より江戸之方江老町程之間ニ立置可申候

- 一、小十人より跡之御供者慈眼寺より江戸之方江老町程下り立置可申候
- 一、御跡之御持頭ハ慈眼寺前より江戸之方江式町半程下り立置可申候

候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ慈眼寺前より江戸之方江四町程下り立置可申候

- 一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄ハ慈眼寺前より江戸之方江九町程下り立置可申候

- 一、同勢ハ慈眼寺前より江戸之方江十四五町程下押可申候

宇都宮

御成之節 御着

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ西原口よりから堀通江付行越開可申候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ太鞍門外丸馬出し外侍屋敷前通今小路之方江開可申候

一、御先馬・御召替之御駕籠ハ二丸外鷹部屋前ニ開可申候

一、御挟箱より御腰物筒迄者二丸之内土手之方江附開可申候

一、御跡御供・御貝太鞍役迄ハ二丸内ニ而開可申候

一、御跡之御持頭ハ太鞍門外百間堀通り江開可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ大手門之内侍屋敷之方ニ残可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ池上町より伝馬町之方ニ残可申候

一、同勢ハ佐野口より引入可申候

#### 宇都宮

#### 御出立之節

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ新田町之橋より日光之方江立置、御供揃刻限半時早ニ御目付より案内申遣直ニ大沢之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ新田町之橋より伝馬町・池上町通大手門外ニ立置、御挟箱より御貝太鞍役迄ハ江戸 御出立之通二丸内ニ御行列立置、右御供廻り計ニ而大手門外迄被遊 出御御跡之御持頭者太鞍門外丸馬出シ之方ニ立置、御貝太鞍役池上町辺迄参り候時分御跡之御持組操出し可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ太鞍門外百間堀通り江

立置、御持頭跡江押続繰出し可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ西原口江段々繰入立置可申候

一、同勢ハ材木町横町より見合引出可申候

#### 大沢 竜藏寺

#### 御成之節 御昼休

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ竜藏寺前を日光之方江拾町程行越行列之儘立置、昼食いたし候而直ニ日光江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄者竜藏寺前より五町程行越留り可申候

一、御先馬より御徒四組迄ハ竜藏寺前より日光之方江立置可申候

一、御長刀より御腰物筒・御鑓・御茶弁当・御水簞筥・御茶簞筥、御小性・御小納戸此分竜藏寺表門より入、御跡御挟箱式ツ・御蓑箱老ツ・御馬三疋・步行御供両御番裏門より入可申候

一、御小道具之場所ニ立候もの竜藏寺入口より江戸之方江老町程之間ニ差置可申候

一、小十人より跡之御供者竜藏寺前より江戸之方江老町程下り立置可申候

一、御跡之御持頭ハ竜藏寺前より江戸之方江式町半程下り立置可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ竜藏寺前より江戸之方江四町程下り立置可申候

一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄ハ竜藏寺前より江戸之方江九町程下り立置可申候

一、同勢ハ竜藏寺前より江戸之方江拾五町程下り押可申候

日光江 御着

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者仮橋を渡り本宮坂通り医王院之方江行越、御目付御使番見合本宮坂下ニ而開可申候

一、御先之御側衆より御鍵奉行迄ハ仮橋を渡長坂通り御殿地脇通り日光奉行御役宅之方江繰入、御側衆御持番所脇ニ罷在順々平服可仕候

一、御先馬・御召替之御駕籠ハ仮橋を渡長坂通り浄土院脇ニ而開キ可申候

一、神橋ハ御長刀・御腰物筒・御駕籠廻り計之御供ニ而 渡御被遊候

一、御挾箱より御徒四組迄ハ仮橋を渡長坂通本坊表門を行越御殿地石垣ニ附キ開可申候

一、御跡御供・御貝太鞍役迄ハ仮橋を渡御跡ニ付本坊迄可罷越候

一、御跡之御持頭ハ仮橋を渡り本宮坂下明キ地ニ而留り可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ仮橋之外ニ而下馬いたし、人馬ハ鉢石町裏河原之内江入置 着御已後左右次第宿々江罷越候様ニ可致候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ御幸町ニ而下馬いたし人馬ハ稻荷町江操入可申候

一、同勢者新町入口横町より稻荷之方江引入可申候

日光 還御之節

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ新町木戸外より七里村之方江立置、御供揃刻限半時早ニ御目付方より案内いたし直ニ大沢

之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鍵奉行迄ハ仮橋外より鉢石町・御幸町之方江立置、御召替御駕籠より御貝太鞍役迄江戸 御出立之通長坂通り本坊表門前ニ御行列立置、右御供廻計ニ而神橋迄 出御被遊候

一、御先馬・御徒四組ハ長坂より光樹院前迄立置可申候

一、神橋ハ御長刀・御腰物筒・御駕籠廻り計之御供ニ而 渡御被遊候、御跡之御持頭ハ仮橋之内本宮坂下明地ニ立置、御貝太鞍役参候を見掛其跡江押続キ操出し可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番并御書院番頭、三之御目付・御使番迄者稻荷町左右江馬立置、八乙女町之方ニ御徒目付罷在段々御供之順々馬操出し可申候

一、同勢者御供揃刻限一小时前ニ鉢石町裏明地江入置見合操出し可申候

大沢 竜藏寺

還御 御昼休

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ竜藏寺前を江戸之方江拾町程行越、行列之儘立置昼食いたし候而直ニ宇都宮へ可罷越候

一、御先之御側衆より御鍵奉行迄者竜藏寺前を江戸之方江五町程行越留り可申候

一、御先馬より御徒四組迄ハ竜藏寺前より江戸之方江立置可申候

一、御長刀・御腰物筒・御鍵・御茶弁当・御水簞筥・御茶簞筥、御小性・御小納戸此分竜藏寺表門より入可申候、御挾箱式ツ・御蓑箱壱ツ・御馬三疋・步行御供之両御番ハ竜藏寺裏門より入可申候  
一、御小道具之場所ニ立候者ハ竜藏寺入口より日光之方一町程之間ニ差置可申候

一、小十人より跡之御供者竜蔵寺入口より日光之方江壱町程下り立置可申候

一、御跡之御持頭ハ竜蔵寺前より日光之方江貳町半程下り立置可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄者竜蔵寺前より日光之方江四町程下り立置可申候

一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄ハ竜蔵寺前より日光之方江九町程下り立置可申候

一、同勢ハ竜蔵寺前より日光之方江拾五町程下り押可申候

宇都宮

還御 御着

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者西原口よりから堀通江附行越開可申候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ太鞍門外丸馬出外ニ而侍屋敷之前通り今小路門之方江開可申候

一、御先馬・御召替之御駕籠ハ二丸外鷹部屋前ニ開可申候

一、御挟箱より御腰物筒迄ハ二丸之内土手之方江附キ開可申候

一、御跡御供・御貝太鞍役迄ハ二丸内迄御供可仕候

一、御跡之御持頭ハ太鞍門外百間堀通江開可申候

一、御跡御側衆より二之御目付・御使番迄ハ太鞍門外丸馬出之外より大手外迄殘可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ池上町より伝馬町之方江殘可申候

一、同勢ハ南新町横町より引入可申候

宇都宮

還御 御出立

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄者茂破町木戸際より池上町之方江立置、御供揃時刻半時早ニ御目付方より案内申遣、直ニ小金井之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鎗奉行迄ハ池上町大手門外迄ニ立置、御召替御馬より御貝太鞍役迄ハ江戸 御出立之通城内ニ御行列立置、右御供廻り計ニ而大手門外まで 出御被遊、御跡之御持頭太鞍門外丸馬出し之外ニ立置、御貝太鞍役大手門外迄參候時分御跡之御持組操出し可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ江野町口入口之方より西馬場町通ニ立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出し可申候

一、同勢ハ材木町横町より見合引出可申候

小金井 慈眼寺

還御 御昼休

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ慈眼寺前を江戸之方江拾町程行越、行列之儘立置昼食いたし候而直ニ古河江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ慈眼寺前を江戸之方江五町程行越留り可申候

一、御先馬より御徒四組迄ハ慈眼寺前より江戸之方江立置可申候

一、御長刀・御腰物筒者慈眼寺門内江入可申候、尤御小道具之場所ニ立候もの者慈眼寺より日光之方江壱町程之間ニ差置可申候

一、小十人より跡之御供ハ慈眼寺前より日光之方江壱町程下り立置可申候

一、御跡之御持頭ハ慈眼寺前より日光之方江式町半程下り立置可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ慈眼寺前を日光之方江四町程下り立置可申候

一、御書院番頭より堀田撰津守殿家来一騎迄ハ慈眼寺前より日光之方江九町程下り立置可申候

一、同勢ハ慈眼寺前より日光之方江拾五町程下り押可申候

古河

還御 御着

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ江戸町木戸内諏訪曲輪之方江繰入開キ可申候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄者大手前通悪戸之方江開可申候

一、御先馬・御召替之御駕籠ハ桜門之内左之方堀端ニ開キ可申候

一、御挟箱より御腰物筒迄ハ平川之方江行越開可申候

一、御跡御供・御貝太鞍役迄者二丸門内迄御供可仕候

一、御跡之御持頭ハ大手前ニ留り見合白壁町江引込可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ大手外より江戸町之方江留可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ江戸町入口式町目之角より横町口之方江残り可申候

一、同勢ハ下妻通より鍛冶町之方江引入可申候

古河

還御 御出立

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ茶屋口之外より原町之方江

立置、御供揃刻限半時早ニ御目付方より案内申遣直ニ幸手之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄者茶屋口より諏訪曲輪内迄立置、御召替御馬より御貝太鞍役迄者江戸 御出立之通 御成門内より行列立置、右之御供廻計ニ而 御成門外迄 出御被遊、御跡之御持頭者諏訪曲輪内より長谷道之方江立置、御貝太鞍役參候時分御持組操出し可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ四軒町角より堀端江戸町之方江立置、御持組之跡江押続繰出可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ肴町角より式町目之方江立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出し可申候

一、同勢ハ原町町屋之裏ニ集メ置候而野道通往還江引出し可申候

幸手 聖福寺

還御 御昼休

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ聖福寺前を江戸之方江拾町程行越、行列之儘立置昼食いたし候而直ニ岩槻江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ聖福寺前を五町程江戸之方江行越立置可申候

一、御先馬より御徒四組迄者聖福寺前より江戸之方江立置可申候

一、御長刀・御腰物筒者聖福寺門内江入可申候

一、御小道具之場所ニ立候者ハ聖福寺入口より日光之方江一町程之間ニ差置可申候

一、小十人より跡之御供者聖福寺入口より日光之方江壹町程下り立置可申候

一、御跡之御持頭ハ聖福寺前より日光之方江式町半程下り立置可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ聖福寺前より日光之方江四町程下り立置可申候

一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄ハ聖福寺前より日光之方江九町程下り立置可申候

一、同勢ハ聖福寺前より日光之方江拾五町程下押可申候

岩槻

還御 御着

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ諏訪小路之方江行越開可申候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ渋江木戸内より天神小路之方江開キ可申候

一、御先馬・御召替御駕籠三丸前江開キ可申候

一、御挟箱より御腰物筒迄ハ二丸前を行越天神曲輪之方江開可申候

一、御跡御供・御貝太鞍役迄ハ二丸車橋門之内迄御供可仕候

一、御跡之御持頭ハ城米藏之小路江開キ可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ渋江木戸際ニ而下馬いたし、人馬者市宿町之方江繰入可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ久保宿町木戸際より市宿町之方江開可申候

一、同勢ハ田中口より且通口之方江土手通引入可申候

岩槻

還御 御出立

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ久保宿町願生寺前より加倉之方江立置、御供揃刻限半時早ニ御目付方より案内申遣、直ニ川口之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄者渋江木戸内より大手之方江立置、御先馬・御召替御駕籠ハ三丸前ニ立置、御跡御供・御貝太鞍役迄ハ江戸 御出立之通二丸前ニ御行列立置、右御供廻り計ニ而大手門迄被遊 出御、御跡之御持頭ハ城米藏之通ニ立置、御貝太鞍役参候時分御持組繰出可申候

一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ諏訪小路入口より諏訪小路之方江立置、御持組之跡江押続繰出可申候

一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄ハ渋江木戸浄安寺前より田中口之方江立置、二之御目付・御使番之跡江押続繰出し可申候

一、同勢ハ村道口之方江集メ置、新町裏道より加倉口之方江引出シ可申候

川口 錫杖寺

還御 御昼休

一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ錫杖寺前を江戸之方江行越、岩淵飯橋を渡立置昼食いたし候而直ニ江戸之方江可罷越候

一、御先之御側衆より御鑓奉行迄ハ岩淵飯橋手前より鎌倉橋迄ニ留リ可申候

一、御先馬より御徒四組迄ハ錫杖寺前を行越、鎌倉橋より錫杖寺迄ニ立置可申候

一、御長刀より御腰物筒者錫杖寺門内江入可申候

一、御小道具之場所ニ立候もの者錫杖寺門前より日光之方江荅町程



之間ニ差置可申候

- 一、小十人より跡之御供ハ錫杖寺前より日光之方江式町程之間ニ立置可申候

- 一、御跡之御持頭者錫杖寺前より三町程日光之方江立置可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ錫杖寺前より日光之方江五町程下立置可申候

- 一、御書院番頭より堀田摂津守殿家来一騎迄ハ、錫杖寺前より日光之方江九町程下り立置可申候

- 一、同勢ハ錫杖寺前より日光之方江拾五町程下押可申候

江戸 御着

- 一、御幕長持より一之御目付・御使番迄ハ大手腰掛後より竜之口八代洲河岸通り開可申候

- 一、御先之御側衆より御鍵奉行迄者酒井雅楽頭辻番際より御堀端通り開可申候

- 一、御先馬より御貝太鞍役迄者常々 御成之通 御城内ニ而段々開可申候

- 一、御跡之御持頭者道三橋之方江開可申候

- 一、御跡之御側衆より二之御目付・御使番迄ハ大手ニ而下馬いたし、人馬ハ御堀端通りより御畳小屋前通り江操込可申候

- 一、御書院番頭より三之御目付・御使番迄者常盤橋之方江開可申候
- 一、同勢ハ神田橋明地ニ而押置、大手外人馬くつろぎ候時分段々引入可申候

以上

日光 御宮 御参詣ニ付  
御供 御先共  
御小人目付出役割

〔注〕

四月十三日の項において記載されている「」内は全て（朱書）である。ついでには表示の煩雑さを避けるために、最初の「」の右横へは（朱書）と表示するが、それ以下は「」のみでくり、右横への（朱書）表示は省略した。」

四月十三日

（朱書）

- 江戸 御出立  
一、御供操出

小島東助「」 小川健吉「」  
「足並掛」田草川伝六「」 西村吾平「」  
「足並掛」柴沼三七「」 吉野刀次郎「」

高松彦三郎「」 「飯役」金井充作

- 一、御供

「足並掛」斎藤茂八郎「」 喜多野省吾「」  
吉田佐太郎「」 永田林太郎  
秋山五八「」 関根佐五郎「」

- 一、御具足附  
一、御秘箱附

原田惣次郎「」  
和田伝兵衛「」

- 川口  
一、御昼休

「大宿割掛」  
宮川九郎八「」 芦名啓蔵「」  
小林猪太郎「」 「大宿割掛」大野平一郎

- 岩槻 御着  
一、御供操込

高橋捨次郎「」 大橋次郎作「」  
松本金七「」 中村伊之助「」  
春日井仲右衛門「」 安達直三郎「」  
近藤定八郎「」 和田伝兵衛「」

岩槻 御泊  
一、当番

同十四日

岩槻 御出立  
一、御供操出

斎藤茂八郎  
高橋捨次郎  
松本金七  
和田伝兵衛

大橋次郎作  
喜多野省吾  
安達直三郎  
永田林太郎

一、御具足附  
一、御秘箱附  
小金井  
一、御昼休

宮川九郎八  
小林猪太郎  
中村伊之助

金井充作  
喜多野省吾  
永田林太郎  
春日井仲右衛門  
川村惣助  
吉田佐太郎  
近藤定八郎  
大野平一郎

一、御供

田草川伝六  
柴沼三七  
春日井仲右衛門

中村伊之助  
金井充作  
秋山五八

宇都宮 御着  
一、御供操込

杉野甚平  
春日井藤三郎  
猪場邦之助  
原田忠次郎

西村吾平  
吉野刀次郎  
吉田佐太郎  
秋山五八

一、御具足附  
一、御秘箱附

幸手  
一、御昼休

池田三市  
原田惣次郎  
吉田佐太郎

黒沢勇次郎  
東浦鏡次郎

宇都宮 御泊  
一、当番

山崎市十郎  
池田三市  
高橋捨次郎  
松本金七

大橋次郎作  
安達直三郎  
黒沢勇次郎  
東浦鏡次郎

古河 御泊  
一、御供操込

山崎市十郎  
猪場邦之助  
関根佐五郎  
桜井源蔵

平島市之助  
芦名啓蔵  
川村惣助  
吉田長次郎

宇都宮 御出立  
一、御供操出

杉野甚平  
斎藤茂八郎  
猪場邦之助  
原田惣次郎

吉田佐太郎  
秋山五八  
喜多野省吾  
永田林太郎

古河 御泊  
一、当番

宮川九郎八  
小島東助  
高松彦三郎  
小川健吉

小林猪太郎  
西村吾平  
吉野刀次郎  
大野平一郎

一、御供

田草川伝六  
春日井藤三郎  
柴沼三七

西村吾平  
金井充作  
吉田長次郎

同十五日

古河 御出立  
一、御供操出

田草川伝六  
柴沼三七  
小川健吉

平島市之助  
和田伝兵衛  
吉田長次郎

一、御具足附  
一、御秘箱附

吉野刀次郎  
安達直三郎

大沢  
一、御昼休

池田三市  
桜井源藏  
川村惣助

黒沢勇次郎  
東浦鏡次郎

一、御宮唐銅御鳥居脇

一、御供所別所口

一、二王門御坂下

一、下乗所

大猷院様

一、二天門

一、常行堂前

一、三仏堂

一、御靈屋

一、御供所

一、本坊詰

一、山中見廻り

一、新宮出役

一、滝尾出役

一、寂光出役

同十八日

日光 御出立  
一、御供操出

平野勘一郎  
田草川伝六  
柴沼三七  
桜井源藏

和田伝兵衛  
川村惣助  
中村伊之助  
金井充作

日光 御着  
一、御供操込

小島東助  
山崎市十郎  
高松彦三郎  
小川健吉

春日井仲右衛門  
和田伝兵衛  
近藤定八郎  
安達直三郎

日光 御旅館  
一、当番

永田忠左衛門  
宮川九郎八  
平野勘三郎  
桜井甚五右衛門

松岡佐助  
小林猪太郎  
平島市之助  
大野平一郎

同十七日

日光 御旅館  
一、昼当番

宮川九郎八  
田草川伝六  
関根佐五郎  
小林猪太郎

芦名啓蔵  
中村伊之助  
大野平一郎

同断  
一、当番泊

桜井甚五右衛門  
杉野甚平  
小島東助  
山崎市十郎

春日井藤三郎  
池田三市  
東浦鏡次郎  
黒沢勇次郎

同十七日  
御成ニ付出役

御宮

斎藤茂八郎  
吉田佐太郎

滝尾  
寂光

高松彦三郎  
喜多野省吾  
秋山五八  
永田林太郎

服穢

吉野刀次郎  
高橋捨次郎  
松本金七

春日井仲右衛門

西村吾平

松岡佐助

柴沼三七

永田忠左衛門

猪場邦之助  
桜井源藏

金井充作

安達直三郎

和田伝兵衛  
川村惣助

近藤定八郎

大橋次郎作  
吉田長次郎

平野勘一郎

春日井藤三郎  
原田惣次郎

本坊  
一、表門

一、御供

小川健吉  
平島市之助

一、御供	齋藤茂八郎 高松彦三郎 近藤定八郎	喜多野省吾 永田林太郎 小川健吉	一、御昼休	高松彦三郎 安達直三郎	東浦鏡次郎
一、御具足附		安達直三郎	古河 御着 一、御供操込	古河 御着 一、御供操込	西村 吾平 吉野刀次郎 吉田佐太郎 秋山五八
一、御秘箱附		芦名 啓藏		古河 御泊 一、当番	宮川九郎八 猪場邦之助 春日井仲右衛門 和田伝兵衛 中村伊之助 近藤定八郎 大野平一郎
大沢 一、御昼休	宮川九郎八 猪場邦之助 小林猪太郎	西村 吾平 大野平一郎		同廿日	宮川九郎八 平野勘一郎 桜井源藏 小林猪太郎
宇都宮 御着 一、御供操込	桜井甚五右衛門 高橋捨次郎 関根佐五郎 松本金七	芦名 啓藏 吉野刀次郎 大橋次郎作 吉田長次郎			松岡佐助 田草川伝六 柴沼三七 小川健吉
同 御泊 一、当番	永田忠左衛門 池田三平 平島市之助 原田惣次郎	吉田佐太郎 秋山五八 黒沢勇次郎 東浦鏡次郎	一、御供	古河 御出立 一、御供操出	齋藤茂八郎 猪場邦之助 秋山五八 喜多野省吾 永田林太郎 川村惣助
同十九日					
慈眼寺江 一、御献備差添		黒沢勇次郎	一、御具足附	一、御具足附	吉野刀次郎 近藤定八郎
宇都宮 御出立 一、御供操出	桜井甚五右衛門 齋藤茂八郎 関根佐五郎 原田惣次郎	芦名 啓藏 大橋次郎作 喜多野省吾 永田林太郎	幸手 一、御昼休	幸手 一、御昼休	宮川九郎八 高橋捨次郎 小林猪太郎 吉田長次郎 大野平一郎
一、御供	桜井源藏 田草川伝六 柴沼三七	松本金七 吉田長次郎 金井充作	岩槻 御着 一、御供操込	岩槻 御着 一、御供操込	永田忠左衛門 高松彦三郎 桜井源藏 平島市之助
一、御具足附		高橋捨次郎			原田惣次郎 和田伝兵衛 近藤定八郎 安達直三郎
一、御秘箱附		西村 吾平	岩槻 御泊		春日井仲右衛門 芦名 啓藏
小金井	池田三市	黒沢勇次郎			

一、当番

関根佐五郎  
松本金七

黒沢勇次郎  
東浦鏡次郎

同十日出立  
一、御轅附

松岡佐助

同廿一日

岩槻 御出立  
一、御供操出

永田忠左衛門  
松岡佐助  
斎藤茂八郎  
高松彦三郎

春日井仲右衛門  
原田惣次郎  
喜多野省吾  
永田林太郎

同十二日出立  
一、御善御道具附  
一、定御供  
(朱書)  
「此分不残 御参詣掛り」

斎藤栄助  
鈴木三左衛門

川村清三郎  
橋本鉄四郎  
伊藤定吉

一、御供

田草川伝六  
柴沼三七  
桜井源蔵

平島市之助  
金井充作  
和田伝兵衛

四ヶ寺  
一、定出役  
(朱書)  
「此分右同断」

鈴木金右衛門  
天笠鉢太郎  
代島儀太郎

長坂源作  
田中勇三郎  
平岡善三郎

一、御具足附

一、御秘箱附

川口  
一、御昼休

池田三市  
猪場邦之助  
小川健吉

吉田長次郎  
黒沢勇次郎  
東浦鏡次郎

(朱書)  
「御参詣掛り御老中」  
一、水野越前守殿附

(朱書)  
「御参詣掛り」  
(朱書)  
「同断」  
鬼沢孫左衛門  
長田八五郎  
高橋金之助  
小島平三郎  
柳本文蔵  
秋山七蔵

江戸 御着城  
一、御供操込

平野勘一郎  
高橋捨次郎  
松本金七  
大橋次郎作

中村伊之助  
吉田長次郎  
近藤定八郎  
安達直三郎

一、堀田備中守殿附

永田忠左衛門

(朱書)  
「御参詣掛り」  
(朱書)  
山崎孫三郎

一、堀 大和守殿附

河野貫作  
藤村太一郎  
和田平助  
柴田一助  
伊藤新之助

四月七日出立  
一、御先勤

桜井甚五右衛門

(朱書)  
「御参詣掛り」  
(朱書)  
神原栄五郎  
(同断)

(朱書)  
「御参詣掛り若年寄」  
一、堀田摂津守殿附

(朱書)  
「御参詣掛り」  
長坂善次郎  
田中岩太郎

(朱書)  
「御参詣掛り」  
平野勘一郎  
木村大八

一、大岡主膳正殿附  
一、遠藤但馬守殿附

石川五兵衛  
小野忠蔵

- 一、松平筑後守殿附 坂本寅平
- 一、牧野伊予守殿附 相原信吉
- 一、白須甲斐守殿附 金田豊三郎
- 一、松平飛驒守殿附 長田小太郎
- 一、新見伊賀守殿附 萱野弥五右衛門
- 西丸御使 佐藤忠三郎
- 一、平岡対馬守殿附

以上

天保十三寅年十一月調之

享保・安永・天保度日光  
御参詣之節御中間勤方并請取物  
員数・宰領・出方其外共諸御用留

安永五申年四月日光  
御社参之節御供御中間人数并勤方伺書

来申年四月日光 御社参之節御供御中間人数并勤方等享保度  
之御振合を以奉伺候趣、左ニ申上候

- 一、御中間組頭 四人  
御供御行列御旗竿之跡、御簾指之者、次左右江式人立御供仕  
候、御昼休ニ而代り合相勤申候 御旅館泊者不仕候
- 一、御供組頭 四人

- 御供老人宛御中間頭之跡江付、平生 御成之節之通相勤、御  
昼休ニ而代り合 御旅館泊老人宛相勤申候
- 一、御簾指之者 三十人  
御簾長持三棹之左右江六人、御旗竿之跡左右江九人立御行列  
御供仕候 御昼休ニ而代り合一日三十人ニ而相勤申候  
御旅館泊者不仕候、御簾長持・御旗竿等世話者御旗同心仕候  
ニ付御簾指之者御行列ニ立御供計仕候  
但御簾長持・御旗竿持人新組

一、御中間目付 式拾人

一、御供并諸出役相勤 御旅館泊り茂式人宛相勤申候 拾人

一日五人宛ニ而仕切、同勢先差引共相勤申候 御旅館泊不仕  
候

一、御持鎗之者 拾八人

御鎗六本内 御十文字式本  
御鑕鎗 壹本  
御抛鞘 壹本  
御直鎗 式本

一日拾式人宛仕切相勤申候 御旅館泊六人宛相勤申候  
享保十三申年四月十三日 御出立之節本郷六町日本多中務大  
輔屋敷前迄御鎗立御供仕候、夫よりかつぎ候而御供仕候、惣  
而 御旅館 御着之節 御出立之節共ニ城内ハ御鎗立御供仕  
候、日光ニ而者鉢石より御鎗立御供仕候

一、野方御使 拾九人

御注進御用并御先勤共相勤申候 御旅館泊者不仕候

一、御馬牽人 五拾老人

御神馬并御供御馬共老疋ニ三人掛り、御供御行列ニ式疋宛出  
申候、残り者御先江罷越申候、尤御馬方差図次第相勤申候

一、御馬髮卷 式人

右者御馬方差図次第相勤申候

追越 宰領 八人

一、御召方御長持

持人 通人足

御昼休ニ而四人宛代り合相勤申候 御旅館泊りハ不仕候

御成 還御之節共御風呂屋口より出入仕候、日光ニ而者御納

戸口より出入仕候、尤奥坊主対談仕相勤申候

同断 宰領 四人

一、御手水御長持老棹

持人 同断

御昼休ニ而式人宛代り合相勤申候、勤方右同断

同断 宰領 式人

一、御鎗 式人

持人 黒鍬之者

御昼休ニ而代合相勤申候、勤方右同断、右追越之儀ハ御供御

行列之跡ニ付 御昼休前ニ罷成候得者追越 御昼休ニ而御用

立、又御泊迄追越罷越申候

一、御丸弁当附 式人

一日老人宛仕切相勤申候 御旅館泊者不仕候 御成 還御

之節共御膳所より出入仕候

一、御菓簞笥 老人

一日仕切相勤申候 御旅館泊者不仕候 御成 還御之節共  
時計之間より出入仕候

一、御召御長持式棹 宰領 式人

持人 黒鍬之者

一、御小長持老棹 宰領 式人

持人 同断

一、御半弓長持式棹 宰領 式人

持人 同断

一、御鎗三拾本 宰領 式人

持人 通シ人足

右御召御長持・御小長持・御半弓長持・御鎗四ヶ条者御供不仕、  
毎朝 御成前奥坊主対談仕御先江罷越申候、尤一日仕切相勤  
申候 御旅館泊者不仕候

一、御次御長持拾老棹 宰領 六人

右同断

一、御朱印御長持 宰領 老人

外ニ御中間目付老人

一日仕切相勤申候 御成 還御之節并日光共ニ御納戸口より  
出入仕候 御旅館泊不仕候

一、若年寄衆 御案内附人 九人

岩槻・古河・宇都宮・日光共ニ操越相勤申候

一、御時計附

御成之節御風呂屋口より出 還御之節ハ時計之間江納申候、  
日光ニ而者御清御長持与一所ニ納申候

一、御清御風呂長持式棹 宰領 式人

御成 還御之節共ニ御風呂屋口より出入仕候

一、御手水長持壺棹 宰領 式人

右御時計并御清御風呂長持・御手水長持三ヶ条者享保十三申年  
四月十一日発足仕候ニ付、御伝馬壺疋・持人人足廿八人御証文  
四月十日 御本丸ニ而外ニ請取申候 御時計附者壺人ニ付御  
伝馬不被下人足式人被下候

一、御同朋方御用 式人

同月十二日発足仕候ニ付 御本丸江相揃表坊主組頭江対談発  
足仕候

一、仲ヶ間荷宰領 八人

道中御伝馬世話仕候

一、触番之者 八人

御中間頭泊り宿江相詰諸触等相勤申候

一、手替 四人

道中上中下食事等并組世話為仕候

都合御供式百三拾八人

内組頭 八人

御旅館泊相勤候者 一、御中間御供組頭 壺人

一、御中間目付 式人

一、御持鎗 六人

御社参御当日御供仕候者 一、御先練白張 七人

内 御中間御供組頭 六人

一、御中間御供組頭 壺人  
一、御持鎗三本 六人

内 御十文字壺本  
御直鎗 式本

右者享保十三申年四月日光 御社参之砌相勤候趣ヲ以申上候

来申年 御社参之節書面之通相心得、但人数等申渡候様可仕  
候哉奉伺候、以上

未十二月

御中間頭  
清水惣市  
羽田五郎左衛門  
渡辺幸蔵

安永五申年四月日光

御社参之節勤方其外之儀左之通御座候

御供人数

御中間

式百八拾四人

内四拾六人

享保之度より  
相増申候



勤方之覺

一、御中間頭

羽田五郎左衛門  
柳田直次郎

御供老人宛 御昼休ニ而代合相勤申候

御旅館泊者不仕候

一、御中間組頭

四人

御供御行列御簾竿之跡江左右江老人宛立御供仕候 御昼休ニ

而代り合相勤 御旅館泊者不仕候、此者共儀者平生ハ御供不仕

御上洛并日光 御社参之節計御供仕候ニ付、茶縮緬袷羽織

為請取申候

一、御中間御供組頭

四人

御供老人宛御中間頭之跡ニ附平生 御成之節御供之通相勤、

御昼休ニ而代り合 御旅館江老人宛泊仕候

一、御簾指之者

三拾八人

御供拾五人宛罷出候内御簾長持三棹江六人、御旗竿之跡江九人

左右江立御供仕、 御昼休ニ而代り合三拾人宛罷出 御旅館泊

ハ不仕候、且御簾長持・御簾竿共請取候節・納候節共ニ御旗同

心取扱、御簾指之者者取扱不申候、持人新組

但手代り共

一、御中間目付

貳拾七人

御供并御先勤等御小人目付申合相勤 御旅館江式人宛泊仕候

一、御中間押

拾人

一日ニ五人宛代合同勢先相勤 御旅館江泊り者不仕候

一、野方御使

貳拾五人

御注進相勤 御旅館江泊り者不仕候

一、御持鎗之者

拾八人

一日拾式人ニ而相勤 御旅館江六人泊仕候、御鎗者 御旅館御

玄関ニ而御徒方江相渡、日光ニ而者本坊御玄関ニ而御徒方江相渡

申候、御鎗之儀ハ本郷六町目本多中務大輔屋敷前よりかつき

御供仕、惣而 御旅館御着之節・御出立之節共城内ハ御鎗立、

日光ニ而者鉢石より御鎗立御供仕候

但内六人者扣ニ仕置候

一、御神馬  
御供馬共

口附  
七拾式人

但尅疋ニ三人宛惣而御馬方差図次第相勤申候

一、御馬髮卷之者

貳人

御旅館御厩江泊り相勤申候

一、宰領

御中間  
六拾人

但扣共

追越

四番

一、御長持

五番

六番

三棹

宰領

御徒目付

御中間 五人

但持人 通シ人足

右御当朝於陰土圭宰領御徒目付請取御行列追越シ御長持所江  
立、宇都宮より追越日光江差遣候事

一、御長持

尅番

三棹

貳番

三番

宰領 御徒目付  
御中間 三人  
但持人 黒鋏之者

一、御弓矢箱  
尙棹

宰領 御中間 式人  
但持人 黒鋏之者

一、棒差箱  
尙棹

宰領 御中間 式人  
但持人 黒鋏之者

一、御薬方御小簞笥  
尙荷

宰領 御中間 尙人  
但持人 新組

一、御用之箱  
尙棹

但持人 新組

宰領之儀者御召方御長持・御弓矢箱・棒差箱・御薬方御小簞笥  
毎朝同刻出候ニ付、右御道具宰領之者より兼合相勤候事

一、御召方御長持  
四棹

宰領 御中間 四人  
但持人 通シ人足

一、同断御小簞笥  
尙荷

宰領 御中間 尙人  
但持人 通シ人足

一、御手水方御長持  
尙棹

宰領 御中間 式人

但持人 通シ人足

一、御長刀  
尙振

一、御鎗  
尙本

宰領 御中間 尙人  
但持人 通シ人足

右ハ四月十二日朝五時奥之番衆・御庭番・坊主一同ニ罷立候節差立岩槻江遣、十三日明七半時前岩槻罷立候節差立古河江差遣候、其已後差立候刻限者前夜於御場所御達有之候

一、御小道具役御長持  
尙棹

宰領 御中間 尙人  
但持人 通シ人足

右ハ四月十三日明七時差立 御昼休川口錫杖寺江差遣シ、御同所御用相済岩槻 御泊江差遣、翌日岩槻 御発駕前差立幸手聖福寺江差遣、段々右之順ニ差遣候、尤 還御之節も右同様之事

一、御小道具役御長持  
尙棹

宰領 御中間 式人  
但持人 通シ人足

右四月十二日朝五ツ時立候節一所ニ差立岩槻江差遣、十四日岩槻 御発駕前明七時差立古河江差遣、十五日古河 御発駕前明七半時差立宇都宮江差遣、十六日宇都宮 御発駕前明七半時差立日光江差遣候事

但 還御之節も右之趣

一、御小道具役両掛挾箱  
尙荷

宰領 御中間 式人

但持人 通シ人足

右四月十二日朝五時出立之節一所ニ差立岩槻江差遣、十四日より  
者 御発駕御跡より差立御泊江差遣候事

一、御次長持 拾五棹

宰領 御中間 六人

但持人 通シ人足

右者四月十二日朝差立岩槻江差遣置、十四日岩槻 御発駕前差  
立古河江差遣候、夫より順々ニ差遣候事

一、御鎗 三拾本

宰領 御中間 式人

但持人 通シ人足

一、御半弓長持 式棹

宰領 御中間 式人

但持人 通シ人足

右四月十三日 御発駕後差立岩槻江差遣奥江為上置、翌朝 御  
発駕後差立、右之順ニ 御泊江差遣候事

但 還御之節も右同断之事

一、御清御挟箱 四走

一、御茶弁当 壹通

一、御手水方御長持 式棹

一、御土圭 壹箱

一、御次長持 四棹

右ハ四月十日御細工所より 御轅与一所ニ 御先江差立御徒目  
付・御小人目付差添、道中御締宜様取計候事

宰領 御徒目付 五人

但持人 宿次人足

一、御水簞笥 壹荷

但持人 黒鍬之者

外、御長持 四棹

宰領 御中間 四人

但此ヶ条之外持人何より出候哉旧記無之候

右者御風呂屋御用 御発駕前日・御当日両日差出、御道中操越  
相廻候御膳所御台所頭江掛合候様可被致事

一、半長持 式棹

宰領 御中間 式人

右奥御右筆御用 御先・御跡江壹棹宛持参いたし候事

一、御丸弁当 壹荷

宰領 御中間 式人

一、御朱印御長持 壹棹

宰領 御中間 壹人

一、御同朋方御用箱 宰領 御中間 式人

宰領 御中間 式人

一、御轅 壹挺

御召替 壹挺

一、御駕籠 壹挺

一、御長持 式棹

右一同四月十日 御先江差立ル、御徒目付・御小人目付差添道

中御締宜様ニ取計罷越候事

一、仲ヶ間荷宰領

八人

一、触番

八人

御中間頭泊り宿江相詰組中出方触等為仕候

一、同手替

四人

御中間頭泊り宿江相詰仲ヶ間病氣等之者有之節替為相勤申候

一、仲ヶ間扶持賄役

四人

御昼休 御旅館相廻り諸事組之世話為仕候

右人数貳百八拾四人

覺

一、御中間御供組頭

壹人

一、御中間目付

貳人

一、御持鎗之者

六人

右之人数 御旅館泊り仕御賄被下候

一、日光 御着之節御供御中間方不残仮橋を渡申候

一、御旅館江被為 入候節御持鎗者御玄關前迄何方ニ而も御供仕候、

御出立之節も御玄關前より御供仕 御昼休ニ而者門前ニ留り

御休江被為 入候已後門内江入御鎗掛江立置 出御前門前江建

申候

一、日光 御社参之節三城 御泊、日光 御旅館 御休所ニ而御配

り御料理被下候人数

御昼休御配被下候分

御中間頭 貳人

御中間 百六拾壹人  
御旅館泊り御賄被下候分

御中間 九人

一、御昼休迄御先江参り候者共御中間頭引連罷越候、右之人馬町屋之裏通り目立不申候様ニ仕差置申候、泊り宿者頭共幕を目印ニ仕候

一、四月十七日 御社参之節御供御行列之儀者江戸紅葉山 御参詣之通与江戸ニ而被仰渡候ニ付左之通相勤申候

一、御先練白張之者七人内  
壹人者御供組頭  
六人者平御中間

一、御供組頭  
御十文字壹本  
持人 六人

一、御持鎗三本  
御直鎗 貳本

一、御中間頭  
江戸紅葉山 御参詣之節ハ壹人宛候得共、寛文年中之格を以貳人罷出申候

一、御供建場之儀御先練白張者本坊門外ニ並申候、御持鎗者本坊御玄關前塀重門之向江建申候 還御之節ハ御門外ニ而開申候

一、御宮ニ而御先練者一之鳥居ヲ入右之方江一行ニ開キ 還御之節者

同所より左右江立御供仕候

一、御持鎗之者一之鳥居左之方塔之前ニ開 還御之節も同所より御供仕候

一、大猷院様 御靈屋江被為 成候節、御先練惣御門之外左之方江一行ニ開申候 還御之節者左右江立御供仕候

一、御持鎗者惣御門之外左之方江開申候 還御之節も同所江建御供

仕候

一、同十七日 御社参過滝尾江 御成被 仰出左之通

一、御中間頭 壹人

一、御供組頭 壹人

一、御鎗三本 御十文字壺本 御直鎗 式本 六人

一、御注進御使 八人

一、御馬三疋 口附 三人

右之通罷出候処即刻御延引被 仰出候

一、四月十八日 還御 御出立之節ニ御鎗本坊御玄関前建御供仕候

一、御紋附箱挑灯 四張

但棒共

右ハ御本丸ニ而御挑灯奉行より請取 還御已後返納仕候

御行列立場・開場

一、御先練御本坊御門外右之方江一行並申候 還御之節も御門外江開申候

一、龜井坊者御本坊御玄関前ニ罷在候 還御之節ハ塀重門前ニ開申候

一、御草履取・御参内傘持ハ御本坊御玄関左之方ニ罷在 還御之節者塀重門前ニ扣申候

一、御長刀・御鎗・御挟箱其外御小道具、本坊塀重門向江立申候

還御之節者御門外ニ而扣申候

御宮

一、御先練者一之御鳥居内左之方ニ一行ニ開キ 還御之節ハ左右ニ二行ニ並申候

一、龜井坊・御草履取・御参内傘、陽明御門坂下左之方銅御灯籠之脇

ニ開申候 還御之節も同斷、但龜井坊計者御向ニ罷在候

一、御長刀・御鎗・御挟箱其外御小道具、一之御鳥居左之方ニ開申候 還御之節も右同斷

一、私共陽明御門坂下迄御供仕候 還御之節ハ御道具脇ニ罷在候

御靈屋 御参詣之節

一、御先練者惣御門外左之方一行ニ開申候 還御之節ハ二行ニ並申候

一、龜井坊・御草履取、仲門坂下塔之方銅灯籠脇ニ開申候 還御之節者同斷、但龜井坊御向ニ罷在候

者同斷、但龜井坊御向ニ罷在候

一、御先傘持御同所銅灯籠之脇ニ罷在候

一、御長刀・御鎗・御挟箱其外御道具、惣御門之外右之方ニ開申候

還御之節も同斷

一、私共仲門坂下迄御供仕候 還御之節御道具脇ニ罷在候

但享保度者 還御已後被仰渡、私共奉拝崇形拝見仕候

一、御長刀・御挟箱其外御小道具御当朝御玄関より出 還御之節も左之通御玄関より上り申候

一、御挟箱六走・御蓑箱共 御旅殿ニ而者奥江上り申候

一、御小馬駿 御当朝御玄関より出、御旗奉行より請取申候、岩槻ニ而武具駕籠江入申候、古河・宇都宮ニ而者玄関江上候節御旗奉行

江相渡申候、日光ニ而者執当部屋江入申候、岩槻・日光ニ而計御小

馬駿役式人宛附罷在候 還御之節も御玄関より上り御旗奉行

江相渡申候

享保十三申年・安永五申年日光

御社参之節諸請取物員数増減書

一、熨斗目裕

七

御先練  
御中間

七人

但享保・安永之度共増減無之

一、綾島裕

壹

御中間御供組頭

壹人

但同斷

一、茶縮緬拾羽織

貳

御中間組頭 四人

但同斷

一、日野黒絹単羽織

但 享保之度  
安永之度

九拾四  
百三拾三

御中間

(朱書)

「享保之度与  
差引

安永之方

三拾九増」

一、脚半

但 享保之度  
安永之度

貳百三拾八足  
貳百八拾四足

御中間

(朱書)

「享保之度与  
差引

安永之方

四拾六足増」

一、青漆紙桐油

但 享保之度  
安永之度

貳百三拾八  
貳百八拾四

御中間

(朱書)

「享保之度与  
差引

安永之方

安永之方 四拾六増」

一、那須紙

壹束

但享保・安永之度共増減無之

一、筆

五対

但同斷

一、墨

壹挺

但同斷

一、蠟燭

貳拾目掛  
百挺

但同斷

一、銀貳拾枚

御中間頭 貳人

但壹人三付銀拾枚宛、享保・安永之度共増減無之

一、御扶持方

御中間頭 貳人

但享保之度壹人者拾人扶持被下候三付、一日五升宛上下日数九日分此米四斗五升、壹人者七人扶持被下候三付、一日三升五合宛上下日数九日分此米三斗壹升五合、都合七斗六升五合  
請取申候

安永之度者貳人共五人扶持宛被下候三付、一日壹人貳升五合宛貳人分日数九日分此米四斗五升請取

(朱書)

「享保之度与  
差引

安永之方 三斗壹升五合減」

一、銀四拾枚

御中間組頭 四人  
御中間御供組頭 四人

但老入ニ付銀五枚宛、享保・安永之度共増減無之

安永度  
一、金五百五拾貳両

御中間 貳百七拾六人

但老入ニ付金貳両宛、享保之度ハ御中間貳百三人、此金四百六

拾兩請取

(朱書)

「享保之度与

差引

安永之方

金九拾貳兩増」

同断  
一、御扶持方

御中間 貳百八拾四人

内八人組頭

但一日老入ニ付貳人扶持宛上下日数九日分、合米廿五石五斗

六升請取申候、享保之度者御中間貳百三拾八人、一日老入ニ

付貳人扶持宛上下日数九日分、合米廿老石四斗貳升請取申

候

(朱書)

「享保之度与

差引

安永之方

米四石老斗四升増」

同断  
一、木錢三拾貫百七拾貳文

御中間 貳百八拾四人

内八人組頭

但老入ニ付一泊り拾七文宛上下六泊り候分、享保之度者御中間

貳百三拾八人、老入ニ付一泊り拾七文宛六泊り候分、木錢貳

拾五貫貳百八拾四文請取申候

(朱書)

「享保之度与

差引

安永之方 木錢四貫八百八拾四文増」

一、御伝馬貳疋

御中間頭 貳人

但老入ニ付老疋ツ、享保・安永之度共増減無之

安永之度

一、同 貳拾八疋

御中間 貳百八拾四人

但享保之度者御中間貳百三拾八人江貳拾四疋被下候

(朱書)

「享保之度与

差引

安永之方

四疋増」

右者享保・安永之度共日光 御社参之節、諸請取物書留書面之

通御座候、以上

未七月

御中間頭

日光ニ而請取物覚

一、白張烏帽子

御社参御当朝御細工頭より請取 還御以後御細工頭江返納仕候

一、日光居小屋江請取物 御本丸ニ而御勘定奉行より書付請取、日光

石屋町竜藏寺ニ而此書付与引替、御賄頭御代官久保田十左衛門・

宮村孫左衛門より請取物

覚

御中間頭

羽田五郎左衛門

兩人分

柳田直次郎

一、腕

貳具

一、折敷

貳枚

一、食次	壺
一、杓子	壺本
一、釜	壺
一、鍋	壺
一、桶	壺
一、柄杓	壺本
一、貝杓子	壺本
一、行灯	壺
一、味噌	六合
一、塩 壺合式勺	
一、油 式夜分	式合
一、薪	拾貳束
一、薄縁	拾枚
一、蓆	拾枚
一、人足	壺人
御中間目付之分者御小人目付之方江加有之候ニ付除之	
御中間貳百五拾七人	
内組頭 八人	
一、碗	貳百五拾七具
一、折敷	貳百五拾七枚
一、食次	貳拾六
一、杓子	貳拾六本
一、釜	拾

一、鍋	廿六
一、桶	四拾六
一、柄杓	貳拾壺本
一、貝杓子	貳拾六本
一、行灯	拾
一、味噌	貳斗五升七合
一、塩	五升壺合四勺
一、薪	五百拾四束
一、油 式夜分	貳升
一、薄縁	貳百五拾七枚
一、蓆	貳百五拾七枚
一、人足	三拾三人
右者安永五申年四月日光 御社参之節、御中間方書留書面之	
通御座候、以上	
右勤方之通相心得組之人数等申渡候様可仕哉、且又其外請取物	
御断并諸願・御道中臨時伺等之儀者追而可申上候、尤 御昼休	
御泊 御休所・御供建場等之儀者追而被仰渡候儀与相心得罷在	
候	
右之通安永度留帳之趣取調候ニ付奉伺候、以上	
寅五月	
御中間頭	
畔柳丈之進	
松永半左衛門	
永坂鑑八	
(朱書)	
「右伺書享保・安永度両例を以相伺候処、安永度之方を以取調可申旨	
ニ付則取調差出ス」	



来卯年四月日光 御参詣之節勤方其外之儀左之通御座候

御供人数

御中間

貳百八拾四人

勤方之覚

一、御中間頭

貳人

御供𦵏人宛 御昼休<sup>ニ</sup>而代合相勤申候、御旅館泊者不仕候

一、御中間組頭

四人

御供御行列御簾竿之跡江左右江𦵏人宛立御供仕候 御昼休<sup>ニ</sup>而

代合相勤 御旅館泊者不仕候、此者共儀者平生ハ御供不仕

御上洛并日光 御社参之節計御供仕候<sup>ニ</sup>付、茶縮緬羽織為請取申候

一、御中間御供組頭

四人

御供𦵏人宛御中間頭之跡<sup>ニ</sup>附、平生 御成之節御供之通相勤

御昼休<sup>ニ</sup>而代合 御旅館江𦵏人宛泊仕候

一、御簾指之者

三拾八人

御供拾五人宛罷出候内御旗長持三棹江六人 御旗竿之跡江九人左右江立御供仕 御昼休<sup>ニ</sup>而代合三拾人ツ、罷出 御旅館泊者不

仕候、且御簾長持・御簾竿共請取候節・納候節共<sup>ニ</sup>御旗同心取扱、御簾指之者取扱不申候、持人新組

但手代共

一、御中間目付

貳拾七人

御供并御先勤等御小人目付申合相勤 御旅館江貳人宛泊仕候

一、御中間押

拾人

一日<sup>ニ</sup>五人宛代合同勢先相勤 御旅館江泊不仕候

(朱書)

「当四月 御参詣之節」

追而  
掛ケ紙

一、御中間押

三城・日光共泊貳人

一、野方御使

貳拾五人

御注進相勤 御旅館江泊者不仕候

一、御持鑓之者

拾八人

一日拾貳人<sup>ニ</sup>而相勤 御旅館江六人泊仕候、御鑓者 御旅館御

玄関<sup>ニ</sup>而御徒方江相渡、日光<sup>ニ</sup>而者本坊御玄関<sup>ニ</sup>而御徒方江相渡

申候、御鑓之儀ハ本郷六町目本多中務大輔屋敷前よりかつき御

供仕、惣而 御旅館御着之節 御出立之節共城内者御鑓立、日

光<sup>ニ</sup>而者鉢石より御鑓立御供仕候

但内六人者扣<sup>ニ</sup>仕置候

御鑓六本内 御十文字式本 御鑓六本 御拋鞘 壹本 御直鑓 貳本

一、御馬牽人

七拾貳人

御神馬并御供馬共𦵏人宛、都而御馬方差図次第相勤申候

一、御馬髮卷之者

貳人

御旅館御厩江泊相勤申候

一、宰領

御中間  
六拾人

但扣共

右宰領附添之分

追越

一、御長持

四番  
五番  
六番

三棹

宰領

御徒目付  
御中間

五人

但持人 通シ人足

右御当朝於陰土圭宰領御徒目付請取、御行列追越御長持所江立、宇都宮より追越日光江差遣候事

一、御長持

壹番  
貳番  
三番

三棹

宰領

御徒目付  
御中間

三人

但持人 黒鋏之者

(朱書)

「当四月 御参詣之節御腰物奉行より御断  
卯二月十三日御下ケ承附」

追而  
掛ケ紙

一、御差箱

宰領 御中間目付 壹人  
但持人 黒鋏之者 六人

壹荷

一、御弓矢箱

宰領 御中間 貳人

壹棹

但持人 黒鋏之者

一、棒差箱

壹棹

宰領 御中間 貳人

但持人 黒鋏之者

一、御薬方御小簞笥

壹荷

宰領 御中間 壹人

但持人 新組

一、御用之箱

壹棹

但持人 新組

宰領之儀者御召方御長持・御弓矢箱・棒差箱、御薬方御小簞笥  
毎朝同剋出候ニ付、右御道具宰領之者より兼合相勤候事

一、御召方御長持

四棹

宰領 御中間 四人

但持人 通シ人足

一、同断御小簞笥

壹荷

宰領 御中間 壹人

但持人 通シ人足

一、御手水方御長持

壹棹

宰領 御中間 貳人

但持人 通シ人足

一、御長刀

壹振  
壹本

御鎗

宰領 御中間 壹人

但持人 通シ人足

右者四月十二日朝五時奥之番衆・御庭番・坊主一同ニ罷立候節  
差立岩槻江遣、十三日明七半時前岩槻罷立候節差立古河江差遣、

其已後差立候刻限者前夜於御場所ニ御達有之候

一、御小道具役御長持

壹棹

宰領 御中間 貳人

但持人 通シ人足

右者四月十三日明七時差立 御昼休川口錫杖寺江差遣、御同所御用相濟岩槻 御泊江差遣、翌日岩槻 御発駕前差立幸手聖福寺江差遣、段々右之順ニ差遣候、尤 還御之節も右同様之事

一、御小道具役御長持

壹棹

宰領 御中間 貳人

但持人 通シ人足

右四月十二日朝五時立候節一所ニ差立岩槻江差遣、十四日岩槻御発駕前明七時差立古河江差遣、十五日古河 御発駕前明七半時差立宇都宮江差遣、十六日宇都宮 御発駕前明七半時差立日光江差遣候事

但 還御之節も右之趣

一、御小道具役両掛挾箱

壹荷

宰領 御中間 貳人

但持人 通シ人足

右四月十二日朝五時出立之節一所ニ差立岩槻江差遣、十四日より者 御発駕御跡より差立御泊江差遣候事

一、御次長持

拾五棹

宰領 御中間 六人

但持人 通シ人足

右者四月十二日之朝差立岩槻江差遣置、十四日岩槻 御発駕前

差立古河江差遣候、夫より順々ニ差遣候事

一、御鎗

三拾本  
但三包

宰領 御中間 貳人

一、御半弓御長持

貳棹

宰領 御中間 貳人

但持人 通シ人足

右四月十三日 御発駕後差立岩槻江差遣、奥江為上置、翌朝御発駕後差立右之順ニ 御泊江差遣候事

但 還御之節も右同断之事

一、御轡

壹挺

御召替

一、御駕籠

壹挺

一、御長持

貳棹

一、御清御挾箱

四走

一、御茶弁当

壹通

一、御手水方御長持

貳棹

一、御時計

壹箱

一、御次長持

四棹

宰領 御徒目付  
御中間 五人

但持人 宿次人足

右者四月十日御細工所より出一所ニ 御先江差立、御徒目付・御小人目付差添道中御締宜様取計候事

一、御水簞笥

壹荷

但持人 黒鍬之者

外  
一、御長持

四棹

宰領 御中間 四人

但持人

右者御風呂屋御用 御発駕前日・御当日両日差出、道中操越相

通候、御膳所御台所頭江掛合候様可被致事

一、半長持

式棹

宰領 御中間 式人

但持人

右奥御右筆御用御先・御跡江老棹宛参候事

一、御丸弁当

老荷

宰領 御中間 人

但持人

一、御朱印御長持

老棹

宰領 御中間 老 人

但持人

一、御同朋方御用箱

宰領 御中間

但持人

一、仲ヶ間荷宰領

八 人

一、触番

八 人

御中間頭泊宿江相詰、組中出方触等為仕候

一、同手替

四 人

御中間頭泊宿江相詰、仲ヶ間病氣等之者有之節替為相勤申候

一、仲ヶ間扶持賄役

四人

御昼休 御旅館相廻り諸事組之世話為仕候

右人数式百八拾四人

一、御昼休迄御先江参候者共・御中間頭引連罷越候右之人馬、町屋

之裏道目立不申様ニ仕差置申候、泊宿者頭共幕を目印ニ仕候

一、日光 御着之節御供御中間方不残仮橋を渡申候

一、御旅館江被為 入候節、御持鎗者御玄関前迄何方ニ而も御供仕候

御出立之節も御玄関前より御供仕 御昼休ニ而者門前ニ留

り 御休江被為 入候以後門内江入、御鎗掛江立置 出御前門

前江建申候、日光御出立之節も御鎗本坊御玄関前建御供仕候

御旅館泊り

御賄被下候分

御中間 九 人

内

御中間御供組頭 老 人

御中間目付 式 人

御持鎗之者 六 人

日光

御参詣并三城 御泊日光

御旅殿 御休所ニ而御配御料理被下候人数

御昼休

御配被下候分

御中間頭 式 人

御中間 百六拾老 人

四月十七日

御参詣之節

一、御先練白張之者七人内

老 人 者 御供組頭

六 人 者 平御中間

一、御供組頭

老 人 御跡御供

一、御持鎗

六 人

但御鎗三本 御十文字壺本  
御直鎗 式本

一、御中間頭

式 人

江戸紅葉山 御参詣之節ハ老 人宛候得共、寛文年中之格を以二  
人罷出申候、且 還御已後被仰渡私共奉拝 崇形拝見仕候

同十七日 御参詣後滝尾江 御成被 仰出左之通

一、御中間頭

老 人

一、御供組頭

老 人

一、御持鎗之者

六 人

但御鎗三本 御十文字壺本  
御直鎗 式本

一、御注進御使

八 人

一、御馬牽人

三 人

但 壺 疋

右之通御供罷出候心得ニ御座候

御行列建場・開場

一、御先練御本坊御門外右之方江一行並申候 還御之節御門外江開  
申候

御宮一之御鳥居内右之方一行ニ開申候 還御之節ハ同所より二  
行ニ並申候

御靈屋惣御門外左之方一行ニ開申候 還御之節ハ二行ニ並申候

一、御鎗御本坊御玄関前塀重御門向江建申候 還御之節ハ塀重御門

前江開申候

一、御宮一之御鳥居左之方塔之前江開申候 還御之節も同所より御供  
仕候

御靈屋惣御門外右之方ニ開申候△ 還御同所より御供仕候

一、私共陽明御門坂下迄御供仕候 還御之節者御道具脇ニ罷在御  
供仕候

△印之  
処江カケ  
紙 安永度之御行列ニ者  
左与有之糺之事

諸請取物員数覚

一、御紋附箱挑灯

四張

但棒共

右者 御本丸ニ而御挑灯奉行より請取 還御已後返納仕候

一、熨斗目給

七

御先練

御中間

七 人

一、綾島給

壺

御中間

御供組頭

老 人

一、茶縮緬給羽織

御中間

御組頭

四 人

一、日野黒絹単羽織

百三拾三

御中間

百三拾三人

一、脚半

式百八拾四足

御中間

式百八拾四人

御中間  
貳百八拾四人

御中間  
貳百八十四人

御中間 式百八十四人

## 一、白張烏帽子

御参詣御当朝御細工頭より請取  
還御以後御細工頭江返納仕

候

日光居小屋江請取物御本丸ニ而御勘定奉行衆より書付請取、日

一、銀貳拾枚  
御中間頭  
貳人

但老人二付銀拾枚宛

一、御扶持方 御中間頭 貳人

但此人共五人扶持宛被下候二付一日壺人弍升五合ツ、弍人分

日數九日分此米四斗五升請取

御中間組頭	御中間組頭
四	四
人	人

但老人ニ付銀五枚宛

一、金五百五拾貳兩 御中間 貳百七拾六人

但壺人二付金貳兩宛

一、御扶持方  
御中間  
貳百八拾四人

但一日尅人二付忒人扶持宛上下日数九日分

合米貳拾五石五斗六升請取申候

一、木錢三拾貫百七拾弐文  
御中間  
弐百八十四人

但𦵏人二付一泊拾七文宛上下六泊候分

一、御伝馬式足 御中間頭 式人

但壺人二付壺正宛

一、同 貳拾八疋 御中間 貳百人拾四人

日光二而請取物覺

一、白張烏帽子

御参詣御当朝御細工頭より請取  
還御以後御細工頭江返納仕  
候

日光居小屋江請取物 御本丸ニ而御勘定奉行衆より書付請取、日光石屋町竜藏寺ニ而書付引替御賄頭郡代方より請取物

覺

御中間頭  
式人

一、碗 式具

一、折敷 貳枚

一、食次

一、杓子 壺本

一、釜 壳

一、鍋 壺

一、桶壳

一、柄杓 壺本

一、貝构子 壹本

## 一、行灯

一、味噌 六合

一、鹽 壹合貳勺

一、油	貳合	貳夜分
一、薪	拾貳束	
一、薄縁	拾枚	
一、莛	拾枚	
一、人足	壹人	

一、碗	貳百五拾七具	御中間 貳百五拾七人 内組頭八人
一、折敷	貳百五拾七枚	
一、食次	貳拾六	
一、杓子	貳拾六本	
一、釜	拾	
一、鍋	貳拾六	
一、桶	四拾六	
一、柄杓	貳拾壹本	
一、貝杓子	貳拾六本	
一、行灯	拾	
一、味噌	貳斗五升七合	
一、塩	五升壹合四勺	
一、薪	五百拾四束	
一、油	貳升	
一、薄縁	貳百五拾七枚	
一、莛	貳百五拾七枚	

一、人足	三拾三人	
来卯年四月日光	御参詣之節御供相勤候者	
右之通御座候、以上		
寅十月		
御中間頭	畔柳丈之進 松永半左衛門 森澄太郎作	
(朱書)		
「右御扣共貳冊袋綴ニいたし一ツ袋江入、寅八月御掛り佐々木三藏殿・榊原主計頭殿江差出ス、同十月相伺候通宜旨組中御供可申渡段三藏殿被申渡候、已後此天保度例を以相伺候方可然与存候請取物御断之儀ハ別帳ニ委敷留有之見合之事」		
安永五申年四月日光		
御社参之節 御留守中勤方		
当申年四月日光	御社参 御成御留守中勤方左ニ申上候	
右申合壹人宛御番相勤候様可仕候	御中間頭 御小人頭	
御中間勤方		
一、御長屋御門番	昼夜 三人宛	
一、新土戸番	同 貳人宛	
一、大奥塀仕切土戸番	同 貳人宛	
一、同御台所前御門番	同 三人宛	
一、同裏締戸番	同 三人宛	

一、御太鞍下土戸番

同 三人宛

但御小人出合勤

右六ヶ所平日之通 御留守中勤番仕候

一、御中間目付

右者御留守中勤番仕候、尤御小人目付出合勤ニ付勤番人数之儀ハ

御小人方書面之内江書加申候

一、御中間御供組頭

右者日光御供ニ四人罷越候間、残り一人者西丸御手当差置申候ニ

付勤番ハ無御座候

一、御中間押

右者日光御供ニ拾人罷越候間、残三人ハ西丸御手当ニ差置申候ニ

付勤番ハ無御座候

一、御持鎗之者

一、野方御使之者

右者日光御供ニ不残罷越候ニ付勤番ハ無御座候

一、諏訪部紋九郎御既定番

一、諏訪部三之助御既定番

一、曲木又次郎御既定番

一、諏訪部八十郎御既定番

一、靄見忠兵衛御既定番

一、斎藤三右衛門御既定番

一、村松四兵衛御既定番

右七ヶ所御厩江御中間定番之者享保度之趣を以 御留守中勤番可  
為仕候、人数等之儀者未御厩ニ而相極り不申候旨申聞候ニ付当時不

申上候

但享保度より当時ハ三ヶ所相増申候

御小人勤方

一、御玄関番

昼夜 式人宛

一、中之口上之番

同 式人宛

外ニ不寐番式人

一、御風呂屋口番

同 式人宛

一、御小人目付

同 五人宛

但御中間目付出合勤

一、御小人御使之者

同 五人宛

右五ヶ所勤方右之通御座候

一、中之口下之番

同 式人宛

一、御納戸口番

同 式人宛

一、御太鞍櫓下土戸番

但御中間方出合勤ニ付御中間方書面之内江書加申候

右三ヶ所勤方右之通御座候

一、御使組頭

右者日光御供ニ五人罷越残り三人ハ西丸御手当ニ差置申候ニ付、

使組頭一人相雇隔日ニ為勤可申候

一、御小人押

右者日光御供ニ拾人罷越残り三人ハ西丸御手当ニ差置申候ニ付、

勤番者無御座候

一、御長刀役之者



一、御小道具役之者

右者日光御供ニ不残罷越候ニ付勤番ハ無御座候

御中間  
御小人 二丸勤番之者

一、御小人目付

昼夜  
式人宛

但御中間目付出合勤

一、御小人御使之者

同  
三人宛

一、御玄関番

同  
式人宛

一、中之口番

同  
式人宛

一、塀重御門番

一、御長屋御門番

一、御台所脇御長屋御門番

右七ヶ所勤番之儀宝曆十一巳年より新規ニ被 仰付平日勤番仕候

間、当申年 御留守中も書面之通勤番可仕儀ニ奉存候間申上候

右ハ当申年四月日光 御社参 御成 御留守中、私共并組之者勤

方書面之通相心得可申哉奉伺候、以上

申正月

御中間頭  
御小人頭

右之通安永五申年相伺候処伺之通被仰渡候、此度者少々増減等も

可有御座候間追而相伺候様可仕候、以上

寅五月

御中間頭  
御小人頭

来卯年四月日光

御参詣之節御留守中勤方

御中間頭

御小人頭

右申合老入宛御番相勤候様可仕候

御中間勤方

一、御長屋御門番

昼夜  
三人宛

一、新土戸番

同  
式人宛

一、大奥塀仕切土戸番

同  
式人宛

一、同御台所前御門番

同  
三人宛

一、同裏締戸番

同  
三人宛

一、御太鞍櫓下土戸番

同  
三人宛

但御小人出合勤

右六ヶ所平日之通 御留守中勤番仕候

一、御中間目付

右ハ 御留守中勤番仕候、尤御小人目付出合勤ニ付勤番人数之

儀者御小入方書面之内江書加申候

一、御中間御供組頭

右者日光御供ニ四人罷越候間、残老入者西丸御手当ニ差置申候ニ

付勤番者無御座候

一、御中間押

右者日光御供ニ拾人罷越候間、残三人ハ西丸御手当ニ差置申候ニ

付勤番ハ無御座候

一、御持鎗之者

一、野方御使之者

右ハ日光御供ニ不残罷越候ニ付勤番無御座候

一、諏訪部鎌五郎御廐

定番

一、曲木又六郎御厩

定番

一、靄見七左衛門御厩

定番

一、村松万蔵御厩

定番

右四ヶ所御厩江御中間定番之者享保・安永度之趣を以 御留守中  
勤番可為仕候、人数等之儀者未御厩方ニ而相極り不申候旨申聞候付  
當時不申上候

但安永度より者三ヶ所相減申候

御小人勤方

一、御玄関番

昼夜 式人宛

一、中之口上之番

昼夜 式人宛

外ニ不寐番式人

一、御風呂屋口番

昼夜 式人宛

一、御小人目付

昼夜 五人宛

但御中間目付出合勤

一、御小人御使之者

昼夜 五人宛

右五ヶ所勤方右之通御座候

一、中之口下番

昼夜 式人宛

一、御納戸口番

昼夜 式人宛

一、御太鞍櫓下土戸番

御中間方出合勤ニ付御中間方書面之内江書加申候

右三ヶ所勤方右之通御座候

一、御使組頭

右者日光御供ニ五人罷越殘壹人ニ相成候ニ付、西丸御使組頭壹人

相雇隔日ニ為勤可申候

一、御小人押

右者日光御供ニ拾人罷越殘三人者西丸御手当ニ差置申候ニ付、勤  
番ハ無御座候

一、御長刀役之者

一、御小道具役之者

右八日光御供ニ不殘罷越候ニ付、勤番者無御座候

御中間 二丸勤之者  
御小人

一、御小人目付

昼夜 式人宛

但御中間目付出合勤

一、御小人御使之者

同 三人宛

一、御玄関番

同 式人宛

一、中之口番

同 式人宛

一、塀重御門番

同 式人宛

一、御長屋御門番

同 式人宛

一、御台所脇御長屋御門番

同 式人宛

右七ヶ所勤番之儀宝曆十一巳年より新規ニ被 仰付平日勤番仕候  
間、来卯年 御留守中も書面之通勤番可仕儀ニ奉存候間申上候

右者来卯年四月日光 御参詣 御留守中私共并組之者勤方書面  
之通相心得可申哉奉伺候、以上

寅十一月

御中間頭  
御小人頭